

令和5年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校国語

○正答率の状況

	R5	R4
廿日市市	70.0	70.0
広島県	69.0	67.0
全国（公立）	67.2	65.6

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（くらべて）。
- ＜設問1 三（2）イ＞ 95.8%
- 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する。
- ＜設問2 ー＞ 89.7%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。
- ＜設問1 二＞ 29.4%
- 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（いがい）。
- ＜設問1 三（1）ア＞ 54.7%

広島県との差が大きかった設問（下位2問）

- 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。
- ＜設問2 三＞ ー1.2ポイント（廿日市市61.7%、広島県62.9%）
- 【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する。
- ＜設問2 ー＞ ー1ポイント（廿日市市89.7%、広島県90.7%）

正答率の状況から見取った課題

- ＜全体的な傾向＞【評価の観点】思考・判断・表現 【問題形式】記述式に課題がある。
- ＜設問1 二＞ 29.4%
- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。条件に合わせ、複数の情報を用いて書くことができていない（グラフとカードのいずれかの情報しか取り上げていない）。

令和5年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校算数

○正答率の状況

	R5	R4
廿日市市	64.0	65.0
広島県	64.0	64.0
全国（公立）	62.5	63.2

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 5脚の椅子を重ねたときの高さを求める。
＜設問1（1）＞ 93.2%
- 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。
＜設問1（2）＞ 88.8%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く。
＜設問2（4）＞ 17.9%
- 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。
＜設問2（3）＞ 22.9%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。
＜設問3（4）＞ -4.7ポイント（廿日市市 44.1%、広島県 48.8%）
- テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く。
＜設問2（4）＞ -2.6ポイント（廿日市市 17.9%、広島県 20.5%）
- 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。
＜設問2（3）＞ -2.2ポイント（廿日市市 22.9%、広島県 25.1%）

正答率の状況から見取った課題

- ＜全体的な傾向＞【学習指導要領の領域】図形領域に課題（県平均より-1.4ポイント）
- ①＜設問2（4）＞高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題がある。
 - ②＜設問3（4）＞2けた÷1けたのわり算を筆算を用いて計算することはできるが、意味を理解していない。筆算と説明（図）と式が一致していない。

令和5年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校国語

○正答率の状況

	R5	R4
廿日市市	72.0	71.0
広島県	70.0	69.0
全国（公立）	69.8	69.0

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 「落胆する」の意味として適切なものを選択する。
＜設問 2 一＞ 90.2%
- インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 1 一＞ 86.8%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 漢字を書く（おし量って）
＜設問 3 二＞ 45.7%
- レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。
＜設問 3 一＞ 56.2%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問 1 一＞ ー1.5ポイント（廿日市市86.8%、広島県88.3%）
- 「落胆する」の意味として適切なものを選択する。
＜設問 2 一＞ ー0.7ポイント（廿日市市90.2%、広島県90.9%）
- 原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す。（いと）
＜設問 4 二＞ ー0.7ポイント（廿日市市73.2%、広島県73.9%）

正答率の状況から見取った課題

＜全体的な傾向＞

評価の各観点、各問題形式とも、広島県及び全国平均を上回っており、大きな課題は見られない。

- ① ＜設問 3 二＞は正答率が最も低かった問題である。正答の「推」を回答した生徒は45.7%にとどまり、44.8%の生徒は他の漢字を回答している。文脈に即して漢字を正しく書くことができていないと思われる。また、無回答の生徒が約1割いる。
- ② ＜設問 3 一＞は選択式で回答する問題だったが、正答率が低く、正答以外の3つの選択肢にも一定数の回答があった。読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることに課題があると思われる。

令和5年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校数学

○正答率の状況

	R5	R4
廿日市市	50.0	53.0
広島県	49.0	50.0
全国（公立）	51.0	51.4

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- はじめの数が11のとき、はじめの数にかけられる数が2、たす数が3のときの計算結果を求める。
＜設問 6（1）＞ 89.2%
- $12(x \div 4 + y \div 6)$ を計算する。
＜設問 2＞ 77.8%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ。
＜設問 3＞ 27.9%
- 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する。
＜設問 9（1）＞ 28.7%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- -5、0、3、4.7、9の中から自然数を全て選ぶ。
＜設問 1＞ -6.3ポイント（廿日市市 35.8%、広島県 42.1%）
- 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する。
＜設問 9（1）＞ -1.8ポイント（廿日市市 28.7%、広島県 30.5%）
- $12(x \div 4 + y \div 6)$ を計算する。
＜設問 2＞ -0.8ポイント（廿日市市 77.8%、広島県 78.6%）

正答率の状況から見取った課題

＜全体的な傾向＞【学習指導要領の領域】図形領域に課題（平均正答率 31.3%）
【評価の観点】思考・判断・表現に課題 【問題形式】選択式・記述式に課題
【問題番号】③空間図形、⑨平行線や角の性質を基に、図形を考察すること

＜図形の性質を考察する場面における課題＞

- ①空間における直線や平面の位置関係を捉えることができない。
- ②予想した事柄について成り立つ理由を筋道を立てて考えたり、問題解決の過程を振り返って本質的な条件を見いだしたりすることができない。

令和5年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校英語

○正答率の状況

	R5	R4
廿日市市	45.0	—
広島県	43.0	—
全国（公立）	45.6	—

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する。
＜設問 5（2）＞ 61.6%
- ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する。
＜設問 8（1）＞ 58.9%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。
＜設問 8（2）＞ 15.7%
- 学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く。
＜設問 10＞ 5.0%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する。
＜設問 7（1）＞ -4.4ポイント（廿日市市 57.7%、広島県 62.1%）
- ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。
＜設問 8（2）＞ -3.2ポイント（廿日市市 15.7%、広島県 18.9%）
- 事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する。
＜設問 5（2）＞ -1.3ポイント（廿日市市 61.6%、広島県 62.9%）

正答率の状況から見取った課題

＜全体的な傾向＞コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて英語を活用する力の育成が課題

- ①【読むことに関する課題】文章を読み、概要、要点や必要な情報を読みとることに課題がある。文と文との関係を正確に読み取ることに課題がある。
- ②【書くことに関する課題】社会的な話題に関して、自分の考えとその理由を書くことに課題がある。日常的な話題に関して、まとまりがあり、一貫性のある英文を書くことに課題がある。

令和5年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

小学生生徒質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

設問	R 5	県平均	R 4 比増減
自分には、よいところがあると思いますか	86.3	85.0	+3.2
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.4	90.7	+3.9
将来の夢や目標を持っていますか	80.8	81.8	-1.0
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	71.2	72.3	+3.0
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.5	96.6	+0.8
人が困っているときは、進んで助けていますか	89.8	91.9	+3.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5	97.5	+1.4
友達関係に満足していますか	91.6	91.3	—
学校に行くのは楽しいと思いますか	85.3	85.5	+0.6

回答の状況から見える成果と課題

成果

- ① 自己肯定感や有用感に関わる項目や、学校満足度に関する項目について、肯定的回答の割合が昨年度よりも増加している。
- ② 先生方は児童のよいところを積極的に認めており、児童もそのことを肯定的に受け止めている傾向が継続しており、そのことが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。
- ③ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について昨年度との比較において1.4ポイント増加しており、否定的な回答の割合も減少している。（3.8→2.4）

課題

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」の項目が昨年度との比較において1.0ポイント減少している。
- ② 昨年度と比較し、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目が3.5ポイント、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目が3ポイント増加しているが、県平均との比較では低い状況にあり、援助希求能力や行動について引き続き指導をしていく必要がある。

小中共通の課題解決に向けて

○ 援助希求能力の育成のための視点（広島大学保健管理センター 岡本医師の講話より）

援助希求の要素は①社会資源、②援助能力、③援助希求能力、④情報・知識である。

援助を求める行動や能力だけに着目するのではなく、援助を受け入れる側の資質の向上や、悩みを相談することで心が軽くなるといった知識や実際の相談機関についての情報を提供していくことも重要である。学校においてはこれらの要素に教職員等との関係性という要素が加わることにより、援助希求行動につながるかが決まる。

小・中学生の間に相談したことで状況が好転したり、悩みや不安にうまく対処できた経験が生涯にわたっての自殺予防につながるということがわかっており、長期的視点に立って取り組む必要がある。

令和5年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

中学校生徒質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

設問	R 5	県平均	R 4 比増減
自分には、よいところがあると思いますか	83.3	83.0	+1.7
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.1	88.1	+1.1
将来の夢や目標を持っていますか	68.3	70.2	-2.9
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	66.6	72.1	-4.5
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.9	95.3	+0.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	87.4	88.7	+3.2
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.4	96.0	-0.4
友達関係に満足していますか	87.3	89.4	-
学校に行くのは楽しいと思いますか	81.9	81.7	+1.4

回答の状況から見える成果と課題

成果

- 令和4年度との比較で肯定的回答の割合が増加した項目が5項目ある。特に自己有用感や学校への満足度に関わる項目については県平均を上回っている。
- 先生方は生徒のよいところを積極的に認めており、生徒もそのことを肯定的に受け止めている傾向が継続している。

課題

- 「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の項目は県平均と比べ低く、昨年度との比較においても4.5ポイント減少しており、援助希求能力の育成が求められる。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の項目が昨年度との比較において2.9ポイント減少している。県平均も昨年度との比較では1.8ポイントの減少であり、全県的な傾向であると言えるが、本市はより強く傾向が出ている。
- 「いじめはどんな理由があっても許されない」の項目については昨年度から減少し、県平均との比較で低い状況にある。否定的回答の割合が3.0％（昨年度4.1％）と減少したが、無回答が1.1％である。（県、全国ともに無回答0.7％）

小中共通の課題解決に向けて

○ 援助希求能力の育成のための視点（広島大学保健管理センター 岡本医師の講話より）

援助希求の要素は①社会資源、②援助能力、③援助希求能力、④情報・知識である。

援助を求める行動や能力だけに着目するのではなく、援助を受け入れる側の資質の向上や、悩みを相談することで心が軽くなるといった知識や実際の相談機関についての情報を提供していくことも重要である。学校においてはこれらの要素に教職員等との関係性という要素が加わることにより、援助希求行動につながるかが決まる。

小・中学生の間に相談したことで状況が好転したり、悩みや不安にうまく対処できた経験が生涯にわたっての自殺予防につながるということがわかっており、長期的視点に立って取り組む必要がある。

令和5年度全国学力・学習状況調査 における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校 ウェルビーイング

友達関係に満足していますか

＜児童が回答した選択肢別の平均正答率＞クロス集計〔児童質問紙－教科〕

選択肢	児童数	児童数の割合（％）	平均正答率（％）	
			国語	算数
当てはまる	657	66.6	70.2	64.2
どちらかといえば、当てはまる	247	25.0	71.9	64.7
どちらかといえば、当てはまらない	68	6.9	69.7	60.7
当てはまらない	15	1.5	68.6	60.0

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

正答率が低い

＜児童が回答した選択肢別の平均正答率＞クロス集計〔児童質問紙－教科〕

選択肢	児童数	児童数の割合（％）	平均正答率（％）	
			国語	算数
よくある	492	49.8	71.6	65.2
ときどきある	407	41.2	69.9	62.9
あまりない	76	7.7	69.7	64.3
まったくない	11	1.1	59.1	52.3

正答率の状況から見取った課題

正答率が低い

○ウェルビーイングに関する質問に対して肯定的な回答をしている児童は、各教科の正答率が高い傾向にある。それに対して、否定的な回答をしている児童は正答率が低い傾向にあることから、児童にとってのウェルビーイングが学力の定着に影響を与えているといえる。また、逆に学力の定着が「満足感」や「幸福感」に大きな影響を与えているといえる。

○否定的な回答（「あてはまらない」「まったくない」）と回答している児童が十数人いる。この児童が、なぜそのような回答をしているのか、個別の状況を把握する必要がある。

令和5年度全国学力・学習状況調査 における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校 ウェルビーイング

友達関係に満足していますか

＜生徒が回答した選択肢別の平均正答率＞クロス集計〔児童質問紙－教科〕

選択肢	生徒数	生徒数の割合（％）	平均正答率（％）		
			国語	数学	英語
当てはまる	444	54.9	70.7	48.5	43.3
どちらかといえば、当てはまる	263	32.5	74.3	52.6	47.0
どちらかといえば、当てはまらない	68	8.4	74.8	51.6	47.3
当てはまらない	22	2.7	70.6	49.1	42.5

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

正答率が高い

＜生徒が回答した選択肢別の平均正答率＞クロス集計〔児童質問紙－教科〕

選択肢	生徒数	生徒数の割合（％）	平均正答率（％）		
			国語	数学	英語
よくある	337	41.7	73.4	50.4	44.9
ときどきある	357	44.1	71.6	51.2	45.1
あまりない	95	11.7	70.3	45.0	43.4
まったくない	8	1.0	78.3	50.8	47.1

正答率の状況から見取った課題

正答率が高い

○ウェルビーイングに関する質問に対して否定的な回答をしている生徒であっても、平均正答率が高い場合もあり、学力が定着している生徒であっても、ウェルビーイングな状態であるとはいえない。本市の傾向として「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合が低いことから、何のために勉強するのか分からずに勉強している生徒が多いことが推察される。改めて「本質的な問い」による授業改善について見直していく必要がある。

○否定的な回答（「あてはまらない」「まったくない」）と回答している生徒がいる。この生徒が、なぜそのような回答をしているのか、個別の状況を把握する必要がある。